

予防歯科学分野における地域貢献

著者	日野 陽一, 於保 孝彦
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	30
ページ	9-10
発行年	2010
URL	http://hdl.handle.net/10232/17024

予防歯科学分野における地域貢献

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻
発生発達成育学講座 予防歯科学分野

日野 陽一・於保 孝彦

当分野では鹿児島県下の様々な機関と連携して県民の歯科保健の向上に取り組んできた。まず鹿児島大学病院歯科の他の診療科と同様に、鹿児島県の事業である離島巡回歯科診療に歯科医師を派遣し、地域の歯科保健医療に貢献してきた（三島村、十島村、口永良部島）。当初の治療内容は、抜歯、歯髄処置が多かったが、最近では保存修復処置、予防処置であるフッ化物歯面塗布や小窩裂溝填塞、歯石除去が増加しており、歯科健康診査（乳幼児、学校、成人）、健康教育、健康相談にも従事している。

その後もいろいろな地域貢献を行ってきたが、近年の活動としては2005年から3年間、薩摩川内市歯科医師会、薩摩郡歯科医師会および川薩保健所が実施主体となって進めた「歯っぴいマタニティ事業」への参加協力がある。妊婦自身の身体や歯の健康維持、出産後の乳幼児う蝕の低減を図ることを目的に、川薩保健所管内の4産婦人科医院で実施している母親学級の中で「歯科衛生士による歯科保健指導及び8020運動推進員による食事レシピの紹介」を実施するもので、計画立案とデータ解析を行った。その結果、歯科保健指導等を受けた妊婦において、歯の健康およびフッ化物の利用に関する知識・意識の向上が認められた。本事業を通じて、地域の産婦人科医院、歯科医師会、歯科衛生士会、8020運動推進員、および行政が、妊婦の歯科保健の重要性を共通認識として持つことに大学として貢献をすることができた。

鹿児島県の小児う蝕の罹患状況は全国的にも高く、各市町村は長年の歯科保健活動によって徐々にう蝕予防効果を上げている。特に、旧宮之城町においてはその効果が顕著であることが県内歯科保健関係者にはよく知られている。そこで2007年に、他の地域における歯科保健活動の効果的な推進の参考とするため、さつま町（旧宮之城町、旧薩摩町、旧鶴田町）、鹿児島県歯科医師会と協同で、同町の乳幼児・学童におけるう

蝕有病状況を明らかにし、実施されている歯科保健事業について検討した。その結果、同町の乳幼児・学童におけるう蝕有病状況が良好であることが明らかになった。特に、3歳児の一人平均むし歯数は1未満であり、県内市町村で6番目に良く、中学1年生の一人平均DMF歯数は県内市町村で唯一1未満であった。歯科健康診査、健康教育、健康相談等の機会を活用してきめ細かい指導を行うとともに、保育園(所)・幼稚園巡回歯科指導を積極的に行い、保育園(所)・幼稚園および小学校におけるフッ化物洗口にも早くから取り組んできた結果であると推測される。しかし、各保育園・幼稚園・小中学校間におけるう蝕有病状況のばらつきは顕著であるため、各施設でのう蝕予防活動（フッ化物洗口等）を大学として支援することもより一層期待されている。

2007年秋からは、曾於郡大崎町の成人歯科保健活動を開始した。まず鹿児島県および曾於郡歯科医師会、大崎町、ライオン歯科衛生研究所と共に2007年度8020歯科保健活動事業として新しい健康づくり事業「大崎町の口腔力（口腔機能）と生活力（栄養の構築・抵抗力）の向上事業」を実施した。本事業は、住民が住民の家庭を訪問して実施・調査を行い、住民同士の連携による高齢者の口腔力（口腔機能）の向上を目指すもので、実施後、対象者の口腔機能の改善が認められた。その結果を年度末のフェスティバルで発表し、優秀者の表彰を行った。その後2008年からは、歯周病健診を特定健康診査と同時に行い、全身状態および生活習慣と口腔状態との調査を行っている。歯周病健診では、単に口腔内の診査だけでなく、口腔乾燥度、口臭、口腔清掃状態の診査も行い、結果説明と同時に口腔清掃法の個別指導を行い、受診者からは好評を得ている。健診データの分析によれば、歯周疾患と血糖値、食事習慣などとの間に相関が認められ、歯科と全身状態の診査を同時に行うことで両者の関係をより密接に捉え

ることが可能になっている。今後もこの活動を継続してデータを蓄積し、住民の健康増進に寄与したいと考えている。

その他、2008年より鹿児島県、鹿児島県歯科医師会、かごしま口腔保健協会と協力して、「メタボリックシンドローム対策連携構築事業」を実施している。この事業は、糖尿病治療担当医と歯科医が連携した治療をモデル的に実施し、地域における具体的な連携体制を構築するものである。また日置市、枕崎市、鹿屋市、喜界町、鹿児島県、保健所、鹿児島県歯科医師会、かごしま口腔保健協会と協力して、保育園・幼稚園における「フッ化物洗口モデル事業」を実施している。地域でのフッ化物洗口モデルを構築するとともに、フッ

化物洗口に関するマニュアルを作成し、鹿児島県内への普及も図っている。2009年からは、本院口腔顎顔面外科と共に川内市医師会立市民病院において急性期疾患入院患者の口腔ケアに従事している。さらに曾於市、錦江町において、歯・口の健全な発育および疾患予防を目的として、乳幼児の保護者に対して定期的な歯科保健情報の提供を行う保健活動が同年より開始され、この活動の計画立案、実施、評価の各段階において連携協力を行っている。

以上、当分野におけるこれまでの地域貢献事業を紹介したが、健康志向の時代に即し幅広い年齢層を対象とした歯科保健活動を今後も継続したいと考えている。